

(別添2-2)

2020年3月20日現在

シラバス

指定番号 249
商号又は名称：福祉と人権ネットワーク つばめ会

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようにする。併せて、介護職の取り組み姿勢の基本を説明する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学 習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 多様なサービスと理解	2		2	<p>WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。</p> <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護研修体系の基本、キャリアパス等の枠組みの説明を行う ・初任者研修の体系を理解できるようにする ・介護保険サービス（居宅、施設）介護保険外サービス などの理解を促す <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「介護職の仕事の内容」についての個々人の有するイメージ等について意見交換を行う ・働く側からみた介護の仕事、利用者からみた介護職の立場からの意見交換など行う
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4		4	<p>WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。</p> <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設の多様な働く現場における仕事内容を説明する ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージを伝えるようにする ・ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れを学ぶ
(合計時間数)	6		6	

使用する機器・備品等	(財) 介護労働安全安定センター発行 介護職員初任者研修テキスト・補助教材DVD パソコン・プロジェクター・スクリーン・模造紙・ポストイット・ポスカ・DVD
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：福祉と人権ネットワーク つばめ会

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を修得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学 習 時間数	うち 通信学 習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 人権と尊厳を支える介護	4		4	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・人間の尊厳と自立とのかかわりを学び、エンパワメントの視点、自立支援の多様性について学ぶ ・ノーマライゼーションの意義について学ぶ ・個人の尊厳に関連する諸制度について学ぶ ・尊厳を重んじる、QOL、個人の権利等を学ぶ 【演習】 ・グループワークによる討議
② 自立に向けた介護	3		3	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・自立とその支援意義を学ぶ ・自立・自律支援、意欲を高める支援、個別ケア等について学習する ・介護予防の考え方について修得する 併せて、要支援者への対応や家族等の支え合いなど学習する
③人権啓発に係る基礎知識	2		2	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・人権意識の高揚につなげるため、障害者や高齢者課題、同和問題、ハンセン病等を課題設定しながら、認識を深める 【演習】 ・グループワーク、フィールドワークなど実施
(合計時間数)	9		9	

使用する機器・備品等	(財)介護労働安全安定センター発行 介護職員初任者研修テキスト 人権教材ビデオ、DVDの活用 パソコン・プロジェクター・スクリーン・模造紙・ポストイット・ポスカ・DVD
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること

シラバス

指定番号

商号又は名称： 福祉と人権ネットワーク つばめ会

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、介護におけるリスク、対応策の要点を理解させる。 ・介護を必要とする人の個別性を理解し、生活支援の視点から支援を捉えることが出来るように目指す。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2		2	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・介護環境の特徴の理解（訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性）を促す ・介護の専門性に即して、介護の着眼点、チームケアの重要性などについて習得させる ・介護にかかわる多様な職種の理解、チームケアにおける役割分担などを理解させる ・職種間連携、ケアマネージャー等の役割を学ぶ
②介護職の職業倫理	1		1	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・コンプライアンス、介護職の職業倫理を習得する ・介護専門職としての倫理意義、利用者・家族や社会に対する責任を認識するようにする ・プライバシーの保護・尊重に十分に留意できるようにする
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2		2	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・PDCA サイクル、リスクマネジメント、感染症、応急手当の要点を理解する ・安全管理体制、事故の要因・実態等を学習する。 ・リスクマネジメントの意義、予防対策、事故発生時の対応などを理解・認識させる ・感染対策の基本的知識（感染の原因、感染経路並びにその遮断、感染症の予防・治療など）について認識させる
④介護職の安全	1		1	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・介護職の心身の健康管理（身体的疲労、ストレスマネジメント、腰痛予防、手洗い・うがいの励行など）に留意するようにさせる ・介護職員の心身の健康管理、予防点を理解する
(合計時間数)	6		6	

使用する機器・備品等	介護労働安全安定センター発行 介護職員初任者研修テキスト・補助教材DVD その他関連教材 DVD、ビデオ等活用 パソコン・プロジェクター・スクリーン・模造紙・ポストイット・ポスカ・DVD
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：福祉と人権ネットワーク つばめ会

科目番号・科目名	(4)介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	・介護保険制度、障がい者総合支援制度の基本的理解を図るとともに、医行為、非医行為の範囲の理解、医療・看護職とのチームケア、リハビリテーション職種の連携などについて理解を図る			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 介護保険制度	3		3	WE Bを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・介護保険制度創設の背景、目的、動向を把握するとともに仕組みの基本的理解を図る ・制度を支える組織・団体の機能と役割、財源等を理解する ・介護保険制度の基礎的理解する
②医療との連携とリハビリテーション	4		4	WE Bを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・医行為と非医行為の範囲、医行為への介護者の対応などを理解する ・医療・看護職とのチームケアのポイントなどを理解、修得する ・リハビリテーションの目的、同職種との連携を理解、修得する ・服薬管理等の基本的な高齢者への留意点、リハビリ職種の基本点を習得する
③障がい者総合支援制度およびその他制度	2		2	WE Bを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・障がい者福祉制度の理念を理解する ・障がい者総合支援制度の仕組みの基礎的理解を図る ・個人情報保護法を理解するとともに成年後見制度、日常生活自立支援事業の基本的枠組みを理解する
(合計時間数)	9		9	

使用する機器・備品等	介護労働安全安定センター発行 介護職員初任者研修 テキスト 関連 DVD、ビデオ等を活用 パソコン・プロジェクター・スクリーン・模造紙・ポストイット・ポスカ・DVD
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称： 福祉と人権ネットワーク つばめ会

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解できるようにする			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①介護におけるコミュニケーション	3		3	<p>WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。</p> <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義、基本的技能を修得する ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際を理解する ・非言語的コミュニケーション、利用者等への声かけ等の基本を学ぶ ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際を修得する ・介護職の基本的態度としての傾聴、受容、共感的理解の技術習得 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜、グループワーク討議
②介護におけるチームのコミュニケーション	3		3	<p>WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。</p> <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームでの連携の基本を学ぶ ・記録による情報の共有化の意義を理解する ・チームアプローチ、多職種間連携を学ぶとともに記録、情報伝達、情報共有化の基本を理解する ・コミュニケーションを促す環境を醸成するため共感的理解の手法等を学習、理解する。
(合計時間数)	6		6	

使用する機器・備品等	介護労働安全安定センター発行 介護職員初任者研修 テキスト 関連ビデオ、DVD パソコン・プロジェクター・スクリーン・模造紙・ポストイット・ポスカ・DVD
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 _____
 商号又は名称： 福祉と人権ネットワーク つばめ会 _____

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	・加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①老化に伴うこととからだの変化と日常	2		2	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・加齢と老化の概念、老化に伴う身体面の変化ポイントを学ぶ ・老化に伴う心身の変化の特徴、老化に伴う心身の機能変化と日常生活の影響を考察し、高齢者への理解を深める。
② 高齢者と健康	4		4	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・高齢者の疾病の特徴点を理解する ・高齢者の疾病と日常生活上の留意点 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点等を学習し、高齢者への理解を深め、適切な対応力を高める。
(合計時間数)	6		6	

使用する機器・備品等	介護労働安全安定センター発行 介護職員初任者研修 テキスト 関連ビデオ、DVD パソコン・プロジェクター・スクリーン
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：福祉と人権ネットワーク つばめ会

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	・介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解させる			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①認知症を取り巻く状況	1		1	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・認知症介護の基本原則など認知症ケアの理念を理解する
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2		2	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・認知症の定義、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別のケアのポイントなどを修得する。
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2		2	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・行動・心理症状の具体的対応、認知症の人への日常生活支援のための基本的な対応等について修得する。
④家族への支援	1		1	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・認知症家族介護者の現状の理解を図り、その支援のある方を探る
(合計時間数)	6		6	

使用する機器・備品等	介護労働安全安定センター発行 介護職員初任者研修 テキスト 関連ビデオ、DVD パソコン・プロジェクター・スクリーン
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：福祉と人権ネットワーク つばめ会

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念とICF、障がい者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方を理解する			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①障がいの基礎的理解	0.5		0.5	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・障害の概念とICFについて理解する。障害者福祉の基本理念である「ノーマライゼーション」「リハビリテーション」「インクルージョン」の概念について学ぶ
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1.5		1.5	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・身体障害、知的障害、精神障害等の障害類型別に医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴等学ぶ。
③家族の心理、かかわり支援の理解	1		1	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・障害の理解、家族の心理を確認し、かかわり支援について理解を深める ・家族の障害の受容過程と意思の理解 など。
(合計時間数)	3		3	

使用する機器・備品等	介護労働安全安定センター発行 介護職員初任者研修 テキスト 関連ビデオ、DVD パソコン・プロジェクター・スクリーン
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：福祉と人権ネットワーク つばめ会

科目番号・科目名	(9)こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	利用者一人ひとりに適切な介護を行うための基本的な考え方を理解する。 介護保険制度下の介護サービスについて学ぶ。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
ア. 基本知識の学習(10～13H)				
①介護の基本的な考え方	2		2	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・ICFの視点に基づく生活支援について学ぶ ・介護保険制度における法的根拠について学び、介護サービスについてを理解する。 ・介護に関する専門的知識、技術の課題など学習する。
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4		4	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・高齢者の心理、適応力、自己実現と生きがいづくりを学ぶ ・心の持ち方が行動に与える影響・からだの状態が心に与える影響について学ぶ ・普段との違いに気付く視点を学ぶ ・感情と意欲、生きる意欲、老化や障害を受け入れる適応行動等を学ぶ
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5		5	WEBを活用したオンライン授業形式を導入する。 【講義内容】 ・人体の名称、働き、運動動作に関する基礎知識、自律神経と、内部器官に関する基礎知識を学ぶ。 ・バイタルチェックなどの基本的事項を学ぶ。 ・健康チェック、バイタルサイン、からだのしくみの基本を学ぶ
(合計時間数)	11	11	11	

使用する機器・備品等	(財)介護労働安定センター「介護職員初任者研修」補助教材DVD パソコン・プロジェクター・スクリーン
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 _____
 商号又は名称： 福祉と人権ネットワーク つばめ会 _____

目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、理解を促す。(視聴覚教材や模型の活用)			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
イ. 生活支援技術の講義・演習 (50～55H)				
④生活と家事	6	6		【講義内容】 ・家事支援の基本原則、家事支援の介護技術の基本を学ぶ。 ・人のくらしの見つめ直し、家事援助の意義を確認する 【演習】 ・実技指導を取り入れて、家事援助とは何かを具体的に理解する。
⑤快適な居住環境整備と介護	6	6		【講義内容】 ・快適な居住環境を考え、福祉用具の基礎知識を身につける ・住居の役割と機能を理解し、福祉用具の活用の基本点を修得する。 【演習】 ・福祉用具の具体説明等を織り込む
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		【講義内容】 ・整容行動を見つめ直し、その支援技術の基本を理解す ・整容に関する基礎知識を身につけ、整容・口腔に関する支援技術を学ぶものとする。 【演習】 ・実技指導を取り入れる(シーツ交換(臥床、側臥位)で行う着脱介助など)
⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		【講義内容】 ・体位・姿勢の持つ意味を学び体位・姿勢の介護を修得する。 ・移乗や車いすでの移動、衣服の着脱等の基本的な扱いにつき修得させる。 【演習】 ・実技指導を取り入れる(ベッド上で上方、水平移動、端坐位より車椅子への移乗・移動、アイマスク活用による歩行介助など)
(合計時間数)	24	24		

使用する機器・備品等	(財)介護労働安定センター「介護職員初任者研修」補助教材DVD 大阪府指定の演習使用物品等一覧(別紙5)を参考としながら備品等の活用に努める (主な使用物としては、以下のとおり) 車いす、テーブル、いす、クッション、タオル、ストロー、スプーン、フォーク、はし、吸い飲み、おしぼり、とろみ剤、ポータブルトイレ、白杖、バスタオル、おむつかパー、ビニール、各種歯ブラシ、パジャマ、ねまき、アイマスク、着脱しやすい衣服、トイレトーパー、尿器、ヘアブラシ、手すり、入浴剤、洗面器、綿棒、座布団、小枕、大枕、石鹸、シャンプー、リンス、爪切り、浴槽、手すり、便座、エアーマット、ビーズマット等
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：福祉と人権ネットワーク つばめ会

科目番号・科目名	(9) ことろとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	介護実践に必要なことろとからだのしくみの基礎的な知識を、介護の流れを示しながら、理解を促す。(視聴覚教材や模型の活用)			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
⑧食事に関連したことろとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		【講義内容】 ・食事の生理的意味を学び、食事介護の一般的原則を学ばせる ・低栄養と脱水のリスク。 【演習】 ・実技指導を取り入れる（(臥床、端座位、半座位にての食事介助、片マヒの人の介助)、
⑨入浴、清潔保持に関連したことろとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		【講義内容】 ・一般的な入浴介護の手順を修得するとともに、障害別の入浴環境、介護を修得させる。 【演習】 ・実技指導を取り入れる (入浴前後の注意事項、バイタルチェックなど)
⑩排泄に関連したことろとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		【講義内容】 排泄の介護要点を学習する。 【演習】 ・実技指導を取り入れる（トイレ誘導（Pトイレ活用も）、おむつ交換、褥瘡予防の方法)
⑪睡眠に関連したことろとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		【講義内容】 睡眠の意味、寝具の整え方等を修得する。 【演習】 ・実技指導を取り入れる ・グループワークの実施
⑫死にゆく人に関連したことろとからだのしくみと終末期介護	6	6		【講義内容】 終末期に関する基礎知識とことろとからだのしくみを理解し、生から死への過程、「死」に向き合うことろの理解、苦痛の少ない死への支援など終末期ケアについて習得をめざす。併せて、尊厳死や生死観についての認識も深められるようにする。 【演習】 ・視聴覚機器を取り入れやグループワークを実施
(合計時間数)	30	30		

使用する機器・備品等	(財)介護労働安定センター「介護職員初任者研修」補助教材DVD 大阪府指定の演習使用物品等一覧(別紙5)を参考としながら備品等の活用に努める (主な使用物としては、以下のとおり) 車いす、テーブル、いす、クッション、タオル、ストロー、スプーン、フォーク、はし、吸い飲み、おしぼり、とろみ剤、ポータブルトイレ、白杖、バスタオル、おむつかバー、ビニール、各種歯ブラシ、パジャマ、ねまき、アイマスク、着脱しやすい衣服、トイレットペーパー、尿器、ヘアブラシ、手すり、入浴剤、洗面器、綿棒、座布団、小枕、大枕、石鹸、シャンプー、リンス、爪切り、浴槽、手すり、便座、エアーマット、ビーズマット等
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：福祉と人権ネットワーク つばめ会

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標				
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
ウ. 生活支援技術演習(10～12H)				
⑬介護過程の基礎的理解	4	4		【講義内容】 ・介護過程の目的・意義・展開やチームアプローチについて学ぶ 【演習】 ・アセスメント事例等をもとに流れを把握する
⑭総合生活支援技術演習	6	6		【演習内容】 ・生活事例を通じ、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得をめざす。
(合計時間数)	10	10		

使用する機器・備品等	(財) 介護労働安定センター「介護職員初任者研修」補助教材DVD パソコン・プロジェクター・スクリーン・模造紙・ポストイット・ポスカ
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称： 福祉と人権ネットワーク つばめ会

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体の振り返り、研修成果の再確認、就業後も学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①振り返り	2	2		<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修全体を振り返り、研修の場で学んだこと、今後継続して学ぶべきことについて確認する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ分けにより、研修成果、今後の課題等を意見交換し、自己検証に努める <p>OR</p> <p>【実習】</p> <p>(実習プログラムの内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所介護事業所等において、主な介護形態の基本について、指導を行う 又は居宅介護先への同行訪問（生活援助、身体介護の実際について学ぶ） <p>(プログラムの特色)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所や通所介護事業所においては、フロア毎の利用者の特性を踏まえ指導。 24時間型施設における生活感を感じ取らせるよう努力する（必要に応じ、 認知症ケア、障害者ケアの実際についても、その基礎を伝達する また、訪問介護においては、利用者の接し方の基本を伝達する <p>(指導体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員による指導及び監督職員のチェック並びに実施後検証を図る
②就業への備えと研修修了後における実例	2	2		<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業への備えと研修終了後の継続的な研修、キャリアアップが図れるような意識づけを行う。 ・キャリアアップに至る具体的枠組みの提示 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の研修修了者（2級ヘルパー講習）の就業実例等の紹介を行う <p>OR</p> <p>【実習】</p> <p>上記に同じ</p>
(合計時間数)	4	4		

使用する機器・備品等	DVD等パソコン・プロジェクター・スクリーン
------------	------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。